

# 6月園だより

令和4. 5. 20 No.1  
かきの木幼稚園  
園長 川井 直子

## えんちょうのふでばこ



「父の日」「母の日」への日々

「お母さん、またお迎えにこないかな？」  
「どんぐりくらぶ」で作った廃材のハンマーは、おうちへのお土産でしようか？

「どんぐりくらぶ」の意義の一つは、ご家庭やクラスと違う人間関係の中で培われる社会性や能力の向上があります。このような「どんぐりくらぶ」では、毎日の園生活やご家庭では、うかがい知れないお子様の心の機微を担当者は感じとっています。

そして、お子様が無理なく集団に溶け込める配慮をしています。特に一日の中で気になることは、保護者に伝えていますが、楽しいこと、誉めたいこと、いろいろな姿を共有して参りましょう。そして、ご家庭に帰ったらお子様から、いっぱいお話を聞いてあげて、その事をご家族で共有して下さい。

現代は経済的に豊かで、核家族で生計を営める時代です。少子化の時代でもありますが、少子化の時代だからこそ、むしろ大人同士はお互いに遠慮して律し合わず、お子さまの社会的な成長のため、お互いに打ち解け合い、助け合う温かい人間関係を築いて下さったら嬉しいと思います。

それが、将来お子様が人を信頼し安心して自ら成長して行き、自立して行く道につながると思います。

「私の子ども時代（昭和30年代）。農家の繁忙期は、母の実家に一週間近く預けられ、「忘れられてしまったか？」と不安を覚えた記憶は未だに忘れられません。」  
親が迎えに来てくれるなんて、こんな嬉しさはありません。



## ～保育日誌より～

どんぐりくらぶ日誌	4月15日(金) 天気:雨
新入園児もだいぶ慣れて、おしっこの時などは自分から声を掛けてくれて、先生を頼ってくれているので安心して接することができます。今週は、火曜日からは始まって、4日間連続で「どんぐりくらぶ」利用の子は、毎日5.5時間どんぐりで過ごしているせいか、家庭内でのくつろぎ方のような遊び方で、先生の上に重なり合って乗ったり、膝の上に4人乗って絵本を読んだり、大家族のように過ごしていた。	

どんぐりくらぶ日誌	5月10日(火) 天気:晴れ
今日は、「どんぐりくらぶ」の利用者が20人いました。泣きながら来る子はいなくなったが、お支度がまだ1人で出来ない子が多い。お弁当のパッキンがくっついてしまっ蓋が開けられずに困っていたり、こぼしてしまった子がいたので、2人体制で見れて良かった。また、年少組の子が遊びの切り替えができず、食事前や外遊びのための片づけのたびに泣いて怒っているの、うまく切り替えができるよう声かけを続けていきたい。	